

携帯電話を中心としたメディアの活用 指導のためのプログラム

< 展開例 >

1. 指導の機会と対象学年

「学級懇談会または学年懇談会」適宜、全学年の保護者

2. 対象学年等

全学年の保護者

3. ねらい

中学生活における携帯電話を中心としたメディアの活用について必要性和危険性を理解する。

(1) 題材 携帯電話を中心としたメディアの活用

(2) 展開

時配	指導の流れ	指導上の留意点
5	1 導入 (1) 子どもに携帯電話を持たせている家庭はどのくらいいるか挙手してもらう。 (2) 現状の感想を聞く。 ・多いと思うか、少ないと思うか など (3) 各地区の平均を知る。 携帯電話などメディアの必要性和危険性について考える	○挙手により人数を把握する。 ○各地区調査実態があれば準備しておく。 ○調査実態を知らせる。 ※参考【H20市原市携帯所持率調査】 中 1 (55%) 中 2 (65%) 中 3 (75%)
20 ～ 30	2 展開 (1) 携帯電話の危険性、また利便性、そして持つことは必要だろうか、ということについて考える。 ○持たせている家庭と持たせていない家庭にそれぞれ、メリット、デメリットについて述べてもらう。 (メリット) ・便利である。 ・安全が確認できる。 (デメリット) ・小中学生にはまだ早い。 ・お金がかかる。 ・いたずらや誘いに対して不安である。 ・親に見えないところで被害を受けないか不安である。 (2) もうすでに持たせている家庭、強くせがまれている家庭が多いと思うが、資料を使って携帯電話の	○携帯電話のメリットやデメリットを話し合うことで、「中学生に必要なのか」という点について考えてもらう機会とする。 ○各学校の実情に合わせ

10	危険性について確認する。 ＊（使用例１） ・家庭教育支援資料「携帯電話を中心としたメディアの活用」 ＊（使用例２） ・千葉県教育委員会配布「ケイタイに潜む危険」 文部科学省委託事業「青少年を取り巻く有害環境対策推進」 企画制作（財）日本視聴覚教育協会 3 まとめ ○危険回避にどうしたら良いかということを中心にまとめを行う。 ①携帯電話使用は、持つ・持たない、使用する・しない、それぞれにメリットやデメリットがある。 ②持たせないならその理由、持たせるなら使い方について家庭でよく話し合う必要がある。 ③危険回避能力を持たせるためにどうしたら良いかを家族で考える。 ④危険回避は大人の知恵と子どもの知恵をよく結集し、我が家のルールつくる。 ⑤ルールやマナー情報モラルについて考える。 など	て資料を工夫する。 ○家庭教育支援資料（中学校４）「携帯電話を中心としたメディアの活用」を使って説明を加える。 ○各学校に配布されている保護者向けのDVD「ケイタイに潜む危険」を使用。 ○携帯電話を中心としたメディアの活用について安全教室を積極的に開き学習することの大切さを強調する。 ○家庭でのルール例を確認するのもいい。 ○家庭で話し合っている内容をいくつか発表してもらう。 ○携帯電話だけではなく、コンピュータ、インターネットの使用など様々なメディアを活用する場合のルールやマナー、情報モラルについても補足説明をする。
----	---	---